

令和7年度

第1回いわての森林づくり県民税事業評価委員会

日 時：令和7年6月13日（金）10：00～12：00

場 所：トーサイクラシックホール岩手 4階第2会議室

1 開 会

(林業振興課：田島振興担当課長)

それでは、お時間になりましたので、ただいまから令和7年度第1回いわての森林づくり県民税事業評価委員会を開催いたします。

私は、進行を務めます林業振興課の田島でございます。

委員の皆様には、御多用のところ御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、お手元の名簿のとおり、阿部委員が所用のため欠席でございます。それから、佐藤委員が少し遅れていらっしゃるということで、今時点まだ見えられていないということで、10名中現時点で8名の委員の皆様に御出席をいただいております、本委員会の規定によりまして、この会議が成立していることを御報告いたします。

それでは、報告に入ります前に、令和7年4月1日付で事務局の異動がございましたので、新任の職員を紹介させていただきます。

まず、林務担当技監、砂子田博でございます。

(砂子田林務担当技監) どうぞよろしくお願いいたします。

(林業振興課：田島振興担当課長)

続きまして、林業振興課主任主査、竹原久美子でございます。

(林業振興課：竹原主任主査) よろしく願いいたします。

(林業振興課：田島振興担当課長)

同じく林業振興課主事、浅沼大翔でございます。

(林業振興課：浅沼主事) よろしく願いいたします。

(林業振興課：田島振興担当課長)

最後に、私、振興担当課長の田島大でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、このほかにも事務局及び現地機関の担当者が出席しておりますが、時間の都合上、紹介は割愛させていただきます。

それでは、会議を進めさせていただきます。

今回の委員会は、次第にありますとおり、

- (1) 令和6年度いわての森林づくり推進事業の実績について、
- (2) 令和7年度県民参加の森林づくり促進事業企画採択に係る意見聴取について、
- (3) 令和8年度以降のいわての森林づくり県民税に係る今後の検討スケジュールについて、
- (4) その他、の4項目を予定しております。

議事の進行につきましては、國崎委員長にお願いいたします。

2 議 題

(1) 令和6年度いわての森林づくり推進事業の実績について

(國崎貴嗣委員長)

おはようございます。今年度に入りまして、今日は変則的に午前中ということで、私の都合というか、いろいろ忙しくなってしまうというので、午後が都合がつかないというようなこともありまして、今回はすみませんが、午前中ということで開催を企画していただきました。今年度は、第4期の最終年度ということで、昨年度末に提言書という形で、次期の第5期に向けた提言をこの事業評価委員会から出したところでございますけれども、今年度は引き続きこの第4期の事業をやっていくことと、次の第5期に向けてのいろんな、どういう事業に取り組んでいくのかといったところで、皆様からいろんな御意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それで、最初に議題の(1)でございます。具体的には、お手元の資料のNo.1、ホチキス留めの資料、そちらを使いながらこれから説明していただきますが、1ページというか、1枚めくっていただいて目次がございます。項目が多々ございますので、3つぐらいのパートに分けて、これから説明していただきたいと思います。

最初に、1のいわての森林づくり県民税の概要というところから、3の③、林野火災予防対策事業、ここのところまで、まず御説明をよろしく願いいたします。

(林業振興課：澤口主任主査)

林業振興課の澤口です。今年度も引き続きよろしくお願いします。座って説明させていただきます。

まず、私から、資料No.1の実績報告書の1ページ目、県民税の概要から説明いたします。概要について書かれているとおりなのですが、先ほど國崎委員長からもお話がありましたが、今第4期最終年度となっております。昨年度の税収が下の3のところに書かれているのですが、個人税6億円、法人税1億5,500万円ほど税収見込んでおります。その下、積立金は、約7億2,000万円ほどとなっております。その下の基金運用益というところで、ここは少し変わっているところでございまして、利率が上がったというところで、一昨年については5万8,000円だったののに対し、令和6年度は180万円ほどと、利率が令和5年度が0.002%だったのが6年度は0.079%と、上昇した関係でここが大きく変わった点、税収自体は、概ね例年のとおりの税収となっております。

続きまして、2ページです。これまでの実施状況というところで、第1期から第4期までの推移が記載されております。現在、上段、事業費のところですが、第4期、6年度の見込みというところが今回の報告する内容となっております。事業費と、あと下の主な取組実績については、この後それぞれ事業ごとに説明いたしますので、ここは詳細は割愛します。

次に、3ページです。事業の実績概要というところですが、この事業費が書かれております。令和6年度の実績というところで、それぞれ事業ごとに記載させていただいておりますけれども、予算額と、あと実績と分かれております。予算額については13億6,800万円ほどで、それに対して実績額ですけれども、8億6,000万円ほどとなっており、差額出ているのですが、この差額は繰越したという金額になります。6年度から7年度への繰越がありますので、その差が出ているというところになります。

その下、実績についても、それぞれ事業ごとにまとめた内容となっております。この後、詳細は説明いたします。あと、6年度から事業費と実績のところ、下から2行目、高田松原の管理運営費というところで、ここが下刈りなのですが、管理運営費が新たに追加になっていくというところ、ここ

が変わっているところです。

4 ページですけれども、ここからは環境の森整備事業の内容になっております。4 ページについては事業の概要で、ここは例年と同じ説明となっております。

5 ページですけれども、6 年度の実施状況というところで、環境の森の状況が書かれております。昨年度については、年間通じて12回の施工地の審査を行っており、全ての件数で145件の施工地を承認したところになっております。

下に詳細を記載させていただいておりますけれども、混交林誘導伐については600haの計画に対して426haほどとなっております。令和5年度より若干増えてはいるのですけれども、400haほどで推移しているといった状況です。

ナラ林健全化については、42haほどの実績となっております。

アカマツ林広葉樹林化ですが、計画に対して5.85haというところで、少し達成度が低いという結果になっているのですけれども、これは昨年度の末にも御説明を少ししておりましたが、令和3年度から5年度までの数量が約200haぐらい確保しております、それを順次実施している状況になっております。アカマツ林広葉樹林化については、実際事業を進めていくと、切る本数は非常に多かったりだとか、ボリュームが増えてくるという関係もあって、単価の上昇もあるので、事業費が大きくなる傾向があって、事業費に対して昨年度の計画より少し落として確保している、施工地を順次やっているといった状況のため、確保数量を少し下回っているといった状況です。

その下、森林環境再生造林ですけれども、計画に対して約143haの実績となっております。

被害森林再生については、昨年度は計画がありませんでしたので、実績がないです。

その下、枯死木除去については、100m³に対して125m³と、計画を上回る確保の数量となっております。

最後の森林作業道整備については、計画はありませんでしたので、実績はゼロとなっております。

その下の2、確保面積の推移というところで、混交林誘導伐とアカマツを合計した数量を推移として表しているのですけれども、昨年度が合計で432haの実績となっております。昨年度までの19年間で1万9,354haとなっております、計画に対して79%、約8割となっている状況です。

続いて、6 ページ、事業主体数についてというところで、昨年度については事業主体数は全部で42事業体となっております。5年度と比べて、若干下がってはいるのですけれども、施工箇所自体については増えているといった結果になっておりますので、新たな事業体が増えてはいないのですけれども、定着してきた事業体が多多く施工地の計画を立てて実施しているといった状況になっております。

7 ページですけれども、取組の成果というところで、これは実際に実施した実績になりますけれども、施工地については167件の施工地を整備実施しております。整備の状況ですけれども、その下の表に書かれております5年度と6年度を比較した表になっておりますので、確認いただければと思います。

森林作業道整備ですけれども、実績ゼロになっておりますけれども、1件施工したものがあります。それが繰越しとなりましたので、6年度の実績とはならず、7年度の実績になる見込みです。

その下ですけれども、令和7年度の対応というところで、混交林誘導伐のグラフが書かれております。令和6年度、一番右のところですが、432、アカマツと合算した数字ですけれども、432というところで、近年は400少しというところで推移している状況です。

8 ページになりますけれども、ナラ、アカマツは、それぞれの事業が書かれております。昨年度の内容、大きな変化はありませんので、確認をいただければと思います。

続いて、10ページ、整備事例というところで、私から混交林誘導伐、2事例のところになりますが、10ページになります。No.1については盛岡市新庄、No.2については遠野市宮守ですけれども、2事例を紹介

しております。どちらも下刈りや除伐を実施した後、手つかずの状態が続いていて、それを混交林誘導伐を実施して混交林化を進めていくといった内容になっております。

（森林整備課：松岡主任主査）

森林整備課の松岡と申します。よろしく申し上げます。座って説明させていただきます。

それでは、11ページのナラ林健全化の整備事例を御紹介します。事業実施主体は、株式会社小友木材で、場所は遠野市附馬牛になります。ナラ枯れ発生箇所から30km以内の区域で、この施工地においてはナラ枯れは発生しておりませんが、林齢が77年生と高齢であったことから、伐採してナラ枯れの被害を受けにくい若い広葉樹林に更新しました。直径10cm以上のナラ類を含む広葉樹を伐採して、チップや用材として利用しました。

次に、その下のアカマツ林広葉樹林化についてです。事業実施主体は、奥州地方森林組合で、場所は金ケ崎町の永栄です。施工地内には、全域に松くい虫の枯損木が見られ、今後も被害が拡大するおそれがあるため、松くい虫被害の感染源となるアカマツを全て伐採して樹種転換を行いました。広葉樹の育成を図るため、伐倒の際にはできるだけ広葉樹に損傷を与えないようにして、伐採木は搬出しました。

以上です。

（森林整備課：菊池主任主査）

続きまして、森林整備課の菊池と申します。座って説明させていただきます。

私からは、資料12ページになります。12ページの上の方の森林環境再生造林の取組事例を御紹介させていただきます。こちらも、場所は遠野市の遠野町というところでございます。この場所は、公益林という県土水源保全森林に区分されていまして、前生樹がカラマツ及びアカマツの人工林の伐採跡地でございます。下層植生、草本類が伐採後は大半を占めていまして、樹高が高くなる稚樹の侵入は見られないというところで、植栽によらなければ更新が困難ということで、このたびカラマツを植栽して森林の再生を図ったという事例でございます。

（森林整備課：松岡主任主査）

続きまして、枯死木除去について御説明します。

同じく12ページの下の方を御覧ください。事業の実施主体は、釜石地方森林組合です。場所は、釜石市大字釜石第8地割、数年前にナラ枯れによる被害を受けて枯死したナラが立っていました。過去に隣接地で倒木被害があったり、その後も枝折れや幹割れが散見されました。写真でも分かるように、直下には民家もあり、人身被害や建物損壊のおそれがあったことから、この事業を活用して危険木を除去しました。伐採に当たっては、家のすぐ裏で重機が入れないこと、また伐倒した木の木片が飛散しないように、ワイヤーロープを駆使して、できるだけ枯死木に衝撃を与えないように配慮しながら作業を行ったそうです。枯死木除去は、以上です。

（森林整備課：菊池主任主査）

続きまして、13ページになります。花粉症対策等採種園整備事業というところで御紹介いたします。

県では、再造林をするために、トレンドとしてはスギとかカラマツを植栽していくのですが、その際にスギについては花粉症対策のため、花粉が少ないスギに転換していく、また今あるスギを伐採してカラマツを植え替えて、花粉症対策を進めているといった2本立てでやっていますけれども、今回

この事業ではカラマツの採種園、種を取るための採種園整備を実施したという内容になってございます。

令和6年度は、採種園の整備ということで、これは奥州市にある県の林業技術センターが管理している採種園がございすけれども、その採種園の中のスギの採種園を伐採した上で、そこをその後整備する内容になってございます。

そのほか、旧アカマツ採種園というものもありまして、それを伐採して、その後カラマツの採種園整備を進めていくといった状況になってございますけれども、6年度の結果としては、カラマツの母樹の植栽を1.0ha行ったといった内容になってございます。引き続き令和7年度もこの採種園の整備を進めていきたいというところでございます。

採種園整備については、以上でございます。

（森林整備課：松岡主任主査）

続きまして、林野火災予防対策事業について、14ページを御覧ください。

令和5年と同様に、令和6年度も林野火災を未然に防ぐための広報宣伝活動と、あと地域で取り組む防火活動を支援しました。

令和6年度の取組実績については、Ⅱ番なのですけれども、1番から3番のラジオ、テレビ、ユーチューブを活用して、4月、5月、翌年の3月にCMを配信しました。4番のボランティア活動支援については、盛岡管内の山火事パトロールを行うボランティア団体の10名に山火事注意の文字が入った帽子、ブルゾン、あと車に掲示するためのマグネットシートを配付しました。次に、5番の路網マーク整備については、宮古農林振興センターが令和6年4月に発生した宮古市の林野火災発生箇所において、消火活動に活用する路網マップを作成して関係者に配付しました。次に、6番については、県と包括連携協定を提携している郵便・宅配事業者の3者、日本郵便とヤマト運輸、佐川急便様の配送車両に山火事注意のマグネットステッカー、県全体で約2,300枚を掲示していただきました。取組の成果としましては、ただいま御説明した取組によって、多くの県民に普及啓発を行うことができ、また宮古市の林野火災発生箇所において路網マップを作成、配付することで、当該地域における林野火災発生時の対策を強化しました。

7年度の対応につきましては、火災発生の原因の多くは人為的なものなので、未然に防ぐ予防活動が重要です。そこで、7年度もこれまでの活動を着実に継続して、県民の火災予防意識がより一層浸透するよう取組を進めます。

一番下に県内の林野火災発生状況の推移というものを載せていました。令和6年は、4月に宮古市で大規模な林野火災が発生したので、被害面積が令和5年に比べて大きく増加しました。林野火災については、年度ではなく1月から12月の年次で集計しているので、令和7年2月に大船渡市等で発生した林野火災については、6年度の数値には含まれておりません。

林野火災については以上です。

（國崎貴嗣委員長）

ありがとうございました。ということで、このホチキス留めの資料No.1の1ページ目から14ページまでの昨年度の取組について、今御説明をいただきました。ここまでの内容について、何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

稲村委員、よろしくをお願いします。

(稲村崇史委員)

どうも、委員の稲村です。まず、今日に先立って資料の御準備及び設営等、御準備していただきありがとうございました。今年度もよろしくお願いいたします。

整備事例の部分なのですが、それぞれ混合林誘導伐から枯死木除去まで事例、いろいろと御用意していただいたのですが、できたら材積と、あとナラ林健全化の部分には広葉樹の伐採地のほうに運搬して、破砕して用材として販売したというような形で、その後の行き先というか、出し先もし分かれば記載していただけると、実際問題この施業で、例えば強度間伐はどれくらいの材積出たのかとか、実際出たものはどういったところに材は行ったのかとかというのが分かりますので、できればそこら辺を今後事例等には載せていただければありがたいなと思いました。 以上です。

(國崎貴嗣委員長) 事務局から何かありますか。

(林業振興課：澤口主任主査)

御指摘ありがとうございます。そのように次回から修正をしたいと思います。

参考までに、混交林誘導伐については、盛岡市のほうは、材積までは出していないのですが、本数では大体1,900本ぐらいのところを、50%間伐しているところと、遠野市のほうについても2,000本を超えるぐらいの本数が大体なのですが、そこから50%の間伐をしております。材積計算まではしていないといった状況でございます。次回から、分かるような表記にしてお示ししたいと思います。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

ちょっとつなぎで、先ほどの混交林誘導伐は、多分事業体から上がってくる調査のデータは、直径は毎木で測っているのですが、樹高は必ずしも材積を出せるほどではなくて、平均的なものを、1、2本測ってというようなものなので、多分以前分析させていただいたときのデータはそうだったので、ちょっとそこから材積を出すと、かなり狂ってしまうし、あと基本的に搬出していないので、どのぐらい丸太が生産されているというような集計はしていないので、なかなか材積は厳しいかなと。ただ、本数とかというものを具体的に、あるいはどういうふうな太さのものを切ったのかとかというようなところは、情報として加えられるのかなと思います。

(稲村崇史委員)

例えばその要件として、搬出が要件ではないので、切捨てでもいいところではあるのですが、実際問題、全部切捨てという場所なのか、幾らかは搬出したというところなのかとか、多分恐らく場所によってあると思いますので、そこら辺、はっきりとした数字をとということではないのですが、一応参考としてこの施工地はどういった場所で、どういった形で搬出と切捨てがあって、これぐらい出て、それは大体どこら辺かというのは、実施した施業者の方は、恐らくしっかりつけているでしょうから、そういった形で施工地がどういった場所で、どういった形で施業したかというのが分かるような形で、参考としていただくと非常にイメージしやすいかなと思いました。お願いします。

(國崎貴嗣委員長)

ほかいかがでしょうか。佐藤委員、よろしくお願いいたします。

(佐藤貴美子委員) 委員の佐藤です。今年度もよろしくお願いします。

14ページの③、林野火災予防対策事業の6番にあります郵便・宅配事業者と連携した山火事予防の取組についてです。こちら、お礼を兼ねてお伝えしたいことがあります。この中に、マグネット用のステッカーというのがありまして、実際実物をお持ちしました。というのは、私、県有林の監視員をさせていただいて、実際配付されたものです。こういった感じのものがかなり配付されておりまして、巡視する日に車に掲示させていただいています。結構目立つものなので、非常に助かっています。一般の方達にも周知していただけるということもありますし、実際に普段の生活でも、宅配業者さんにつけられているステッカーとか、わんこきょうだいが載っているものとか見させていただいたり、郵便局の配送車にもついているなという感じで、一般の方々にも分かりやすく掲示されるようなものだったので、一応御紹介とお礼を兼ねて、ありがとうございます。

あと、前後しますけれども、5番の路網マップ整備についてなのですが、こちらは何度か今までしつこいと思うぐらいお話しさせていただいています。要は消防も、もともとはこの事業、消防のお願いから始まった経緯を聞かせていただいています。実際山に入って、どこにどういう道路あるというのは、なかなか事業体でも把握しにくい部分で、国有林のマップもあることはあるのですが、実際本当に車で行けるのかとか、行ったらもう車は通れない、歩いてしか行けないという情報を、消防とか、警察にも分かりやすく、すごく細かに網羅されている地図なので、これをぜひ、もっと広めて、予算の関係上もあるとは思いますが、なるべく着実に広げていって、広げた先のその何年後かに、実際はまだ本当に通れているのかという、希望としては確認する事業も今後考えていただければと思います。

実際に災害規模の大雨が降った場合、土砂が流れやすかったり、洗掘といって、水の流れたところに穴ができて、実際に道路はあるけれども、車が通れないという状況が多々見られます。消防の方々、今回大船渡の火災のときに、県外の方々が本当にたくさんいらっしゃって、御健闘されて、そのおかげで今の私達があるようなこともありますので、そういった方々にも分かりやすく、消防活動がスムーズに行くように、ぜひともこの事業はずっと続けていっていただきたいと思います。以上です。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。村田委員、お願いします。

(村田和代委員)

専門的なことは分からず、いつもすみません。今の予防対策事業に関わるのですが、今朝うちの職場で県民税、市民税のお知らせの通知が届きまして、それを開いてみたら森林環境税1,000円というのがありました。多分どこの家庭にもそういうのが出るのかなと思います。これを見て思ったのですが、ラジオ、テレビのCMとか、YouTubeを活用したCM、閲覧数の数を見てびっくりしました。何かと比較して多い、少ないは分からないのですが、これだけ多く閲覧されているということは、いろんな活動の周知とか、意識とかにつながっているのかなと思います。様々更新作業は大変かと思いますが、この数が増えて、本当に県民みんなが関心持ったり、応援してくれるような気持ちが高まっていくといいなと思いました。感想です。以上です。

(國崎貴嗣委員長) ありがとうございます。ほかはよろしいですか。

「なし」の声

(國崎貴嗣委員長)

そうしましたら、今日は皆様、会議が終わるとお昼休みで、また午後のお仕事とかという形で時間がタイトですので、先に進ませていただきます。

続いて、15ページ、④―1、県民参加の森林づくり促進事業から、⑦、25ページですけれども、森林公園機能強化事業という、ここまで御説明をお願いいたします。

(林業振興課：竹原主任主査)

それでは、林業振興課、竹原と申します。座って説明させていただきます。

それでは、15ページの県民参加の森林づくり促進事業について御説明いたします。こちらの事業概要は、県民の森林づくりへの理解の醸成と積極的な参画の促進を図るということで、様々な活動をしていただいております。

Ⅱ番の6年度の実施状況は、こちらの御覧のとおりでございます。各団体とも計画どおり実施をしていただきました。2番の本事業の成果でございますけれども、参加人数、計画値6千人というところ、実績値は1万人を超えるといったところで、達成をしているところでございます。

Ⅲ番で、7年度の対応ということで、こちらのほう、今年度2次募集を実施いたしまして、この後2次募集の意見聴取もお願いするところなのですが、実績や成果は安定傾向にあるかと考えておりますけれども、更なる新規団体の確保というところが低くなってくると考えてございます。いろいろと情報発信も力を入れて進めてまいりたいと考えております。

次のページに参りまして、4事例挙げさせていただいております。まず、16ページの2事例で、森林整備と人材育成でございます。こちらの森林整備のところの活動団体、生母生産森林組合の組合という字が、すみません、抜けておりました。申し訳ございません。こちらは、ボランティアによる植樹及び下草刈り等の森林整備活動ということで、内容を実施していただきました。写真のとおりですけれども、延べ143名の方に御参加をいただいて、活動を実施したということになってございますし、下のほうの人材育成の部分ですけれども、特定非営利活動法人のいわて森林再生研究会に実施していただきました。写真のほう御覧のとおりでございますけれども、森のチェーンソー講座ということで、全20回計画どおり実施をされております。

次のページに参りまして、17ページ、上が新規事業になりました森林環境学習、NPO法人地球の仕事大學つちのこ保育園ということで、こちら初めての事業ということで、予定どおり実施をしております。森林整備活動と子供向け自然遊びイベントということで実施をされております。写真は、暗くて見づらい面もあるかもしれませんが、森林整備の活動と、実際にお子さん達が森の中で整備されたところで遊んでる風景ということで掲載をさせていただきましたが、普段近づく機会のない山林において、あえてお子さん達中心の場を創出するというので、成果を上げたということで、報告をいただいております。

最後に、県産材利用の部分です。社会福祉法人堤福祉会、こちらの方、採択回数、0回と書いていたのですが、申し訳ございません。1回の間違いでした。失礼いたしました。こちらは、大槌町の園児、児童への地域材利用促進事業ということで、予定どおり実施をしております。内容では、木製ベンチの設置を6台ということで、写真のベンチなのですけれども、あとベンチの展示と親子記念撮影会、この他に本当は普及啓発活動ということで、地域の方々を交えたイベントを開催する予定だったのですが、そちらの方は、残念ながら台風で実施はできなかったそうなのですが、6年度は一応ここの認定こども園は地域に開かれた場所ということもあり、活動実績は200人の参加となりまして、園児、児童が

県産材に触れるといったところ、あともう1つ、ただベンチを置くということだけではなくて、製造工程を学ぶという写真を抜粋させていただきましたが、どうやってこのベンチができるのかといったところを記載したものをを見ていただいて、関心を深めていただいたことになってございます。

以上でございます。

（森林整備課：似内主任主査）

続きまして、資料18ページでございます。私、森林整備課、似内と申します。どうぞよろしくお願い致します。座って説明させていただきます。

資料18ページ、森林・山村多面的機能発揮対策事業でございます。こちら事業の概要ですが、森林の有する多面的機能発揮させるために、森林所有者や地域住民等の方々が協力して実施する森林の保全活動、山村地域の活性化に資する取組に対して支援しております。

令和6年度の実績です。6年度は78団体が事業に取り組まれました。活動内容につきましては、下の表がございまして、主な活動実績のところを御覧いただきたいのですが、大きく3つの区分がございます。左の方から地域環境保全の取組、こちらは里山林整備・侵入竹の除去等が該当いたします。それから、森林資源利用、こちらは薪炭利用等のための伐採、その右側にあります森林機能強化といいますのは、先ほどの2つの事業に付随して行う森林作業道等の開設、この大きく3つのタイプの活動がございます。

右側の方、19ページを御覧いただきたいと思います。実施事例を2つ載せてございます。1番目の荷軽部里山会、久慈市ですが、こちらは地域環境保全タイプ、里山林の保全を活用されまして、除間伐ですとか、それから発生しました木材を使ってシイタケ生産等を実践されております。

それから、下の方、No.2の活動団体、下雪屋里山会、九戸村でございます。こちらでも地域の森林の伐採を行いまして、除間伐と木炭の生産、こちらの地域で木炭生産が盛んだということで、地域の特産物を生産するということで取組をされております。

18ページに戻っていただきまして、これら6年度は活動を進められまして、地域環境保全タイプでは549haほど、森林資源利用タイプでは39haほど、あとは作業道の開設ということで2,650メートルという実績を上げられております。

成果指標につきましては、活動組織数を指標としておりまして、計画値84に対して実績78ということで、達成率は約93%となっております。

取組の成果でございます。本事業の実施を通しまして、里山林の景観改善ですとか、薪炭材の利用などの事例が多数見られました。

今年度、令和7年度ですが、国の事業変更に伴いまして、支援対象となる活動等が一部変更となっております。概ね大体の流れは同じでございますが、一部変更となっております。里山林整備ですとか間伐材利用、それから最近関係人口とか交流人口の拡大といっぱい言われておりますけれども、そちらに資する取組というものもメニューにございますので、これらを活用しながら山村地域の活性化に引き続き取り組んでまいります。説明は以上でございます。

（林業振興課：竹原主任主査）

次に、20ページ、「木育の推進等につながる県産木材活用」の取組のところでございます。

事業の概要といたしまして、県民向けの施設なので、県の施設への県産木材活用の促進を図ることで、県産木材のぬくもりや心地よさなどを感じてもらいながら、木材利用の意義や森林づくりへの理解醸成

を図るということを目的としてございます。

令和6年度の実績でございます。採択事業4件ということで、事業を実施してございます。トースタシクラシックホール岩手、この会場の1階の休憩室、休憩のところに木製品ということで、机ですとか椅子を設置してございます。その他、御覧のとおり野外活動センター等に設置をしてございます。

取組の成果ということで、今回は芸術文化施設ですとか教育施設等に設置したということで、木育の推進や県産材利用促進につながる取組となったと考えてございます。

令和7年度の対応ということで、令和7年度当初予算においても募集を行いまして、2部局にて3事業の実施を予定しているところでございます。こちらにつきましても、いわての森林づくり県民税の情報発信というところで、引き続きマークですとかパンフレットの配架等々を実施していきたいと考えてございます。

次の21ページのところに事例のところを記載してございます。写真を御覧いただきますと、こちらの県民会館1階に導入した木製品ということで、机と椅子です。あと、県立病院内の保育所に木製玩具を導入いたしましたので、その一部をこちらに掲載してございます。以上でございます。

(森林整備課：似内主任主査)

続きまして、資料22ページでございます。いわて森のゼミナール推進事業について御説明いたします。

こちらの事業は、森林・林業に対する理解の醸成を図るため、児童生徒をはじめ、広く県民の方々を対象として、森林・林業に関して学習する機会を提供するものでございます。

令和6年度の実績でございます。この事業では、大きく2つの項目を実施しておりまして、まず1つ目として、児童生徒に対する森林環境学習会を実践しております。小中学校や保育園等におきまして、797名の児童生徒を対象として森林環境学習を行いました。

それから、2番の森林環境学習指導者研修会です。こちらは、実際に環境学習を指導される方々を対象といたしまして、研修会を2回開催したところでございます。指導者同士の学びの場ということで、こちらでも毎年開催しているものでございます。

成果指標ですが、学習会参加者数として、計画値を500人と設定しておりまして、実績が797人、達成率は159.4%となりました。

Ⅲ番の実績でございます。森林環境学習会につきましては、森林インストラクター等の指導によりまして、児童生徒の皆さんが森林の働きですとか、その森林の果たす役割について学ばれました。

また、2番の学習指導者研修会でございます。こちらは、先ほどお話ししたとおり、指導者の方々の相互の情報交換ですとか、研修を通じて資質の向上に励まれたということで、成果が上がっております。

今年度、令和7年度の対応でございます。本県の森林を良好な状態で次の世代、子供たち、孫たちの世代に引き継ぐためには、今の子供たちをはじめとして、県民の皆様に森林環境保全に対する理解醸成の取組を継続して行う必要がございます。ですので、今年度も引き続き森林環境学習会並びに森林環境学習指導者研修会を開催して継続してまいります。以上でございます。

(森林保全課：廣田特命課長)

森林保全課の廣田と申します。よろしくお願ひいたします。座って説明させていただきます。

資料25ページになります。森林公園機能強化事業について御説明します。こちらの事業の概要は、森林公園、広く県民の森林・林業に対する理解の醸成を図るために、森林環境教育拠点施設である森林公園の機能強化を実施するというもので進めております。

次に、令和6年度の実績なのですが、まず施設整備といたしまして、利用者が散策しやすくなるための森林整備のほかに、多様な年齢層の利用者の方々の利用拡を図るために、木製玩具の補充等を行いました。下の表にありますとおり、千貫石森林公園において間伐を2.7ha、そしておもちゃの補充は県民の森と大窪山森林公園で玩具の補充を行いました。

下の整備状況にありますように、千貫石の森林公園では、アカマツ林だったのですが、非常に暗くて、散策するのに見通しも悪くて怖いような状況だったのですが、このようにすっきりと大分間伐をして木が整理されて、明るい林内で安全に安心して散策できるようになりました。

隣は、県民の森の木玉のプールというのがあるのですが、その木玉を補充したり、壊れてしまったおもちゃを補充したりというようなこと、あとは大窪山森林公園はテーブルがあるので、利用にぐらつきやすい不安定な足だったので、こちらのテーブルに下の台を入れて補強したというような補充、修理をしております。

このほか、2番の広報活動で、森林公園の整備状況や見どころといったものを県のホームページや指定管理の方々のSNSなどで情報発信を行っているところです。

この取組成果といたしましては、Ⅲ番目の取組の成果ですが、森林整備で林内の見通しがよくなって安心して散策できるようになったこと、あとは木製玩具の補充でいろいろな方々が安全に楽しく木と触れ合える環境が整備されました。

26ページのⅣ番の令和7年度の対応です。令和7年度においても、引き続き機能強化に向けて、施設の整備を計画的に進めるのですが、下の表にありますように、まず6年度の繰越しということで、県民の森では学習展示施設のチップボイラーがあるのですが、そちらにチップを送り出すチップサイロの更新というのを予定しております。

また、今年度の事業費で県民の森、滝沢、千貫石、これらの森林整備ということで、倒木のおそれのあるいろんな危険木については、支障木伐採というような森林整備、千貫石についてはまた林内を明るく、見通しよくするための間伐、あとはそれ以外の全部の森林公園では、滝沢森林公園以外の木育スペースが設置されている森林公園では、木製玩具の補充等を引き続き行ってきたいと思います。

以上になります。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。ということで、資料の15ページ目から26ページ目まで、④—1から⑦まで御説明いただきましたけれども、何か御質問等ございますでしょうか。

稲村委員、お願いします。

(稲村崇史委員)

18ページ、森林・山村多面的機能発揮対策事業に関してですが、本委員会から平井先生と私が地域再生協議会に出向という形をさせていただいておりまして、先日その総会と協議会がございましたけれども、この18ページのⅣ番の対応の部分で、事業名が「里山林活性化による多面的機能発揮対策」変更ということで、それに伴って、細かいいろいろ変更ございまして、もちろん御担当は御存じだとは思いますが、資料のほう、まだ恐らくそこを細かくしてしまうと分かりにくいということだったと思うので、ちょっと補足させていただきますと、令和6年度、これは環境保全と森林の利用というのがそれぞれ別個な形ではあったのですが、国の枠組みとして、今後はこの保全と資源の活用というのがセットで1つのメニューということで、それぞれメニューとして3本ありまして、地域活動型

というのが森林資源の整備と利用、もう1つは竹林の整備と利用で地域活動型というのがもう1本ありまして、もう1つ、複業実践型という形で、より活用のほうに力を入れて、もう完全に複業としてやってくださいという、例えば法人ではなければいけないとか、あと作業員の人が年にどれぐらい作業をしなければいけないとかと、いろいろあるのですけれども、そういった枠組みがいろいろ変わったということがございましたので、一応御報告として今回報告させていただきました。

それとあと、国と県と市町村でそれぞれ補助を分担するという形でやっているのですけれども、先日の会議で、一部市町村でなかなかその要件では満額が難しい等あったので、引き続きこの事業に関して、今年度以降どうなっていくかというのは、何かございましたらまた報告させていただきたいと思っております。以上です。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。ほかの委員の方から何かございますか。

川田委員、お願いします。

(川田昌代委員)

川田昌代です。今年もどうぞよろしくお願いします。

いわて森のゼミナール推進事業につきましては、私も関わらせていただいております、各小学校のから大変たくさんの御要望をいただいております、数も実績もどんどん上がっているというところで、とてもいいと思っておりますので、今後もぜひ継続して続けていただきたいと思いますというところです。

あともう1つ、木育の玩具、これも素人な意見で恥ずかしいのですけれども、私も孫がおりまして、どこに遊びに行こうかなというときに、木育の玩具があるところに遊びに行ってみようというので、あちこち利用させていただいております。住まいが前沢で、県南ですので、なかなか近くに、一番近いところで千貫石ですか、行かせていただいたりもするのですけれども、現場のほうにももっとたくさんの玩具があるといいなと思ったりするところもありますので、今後もそういう木育の玩具を置く場所を広げていただきたいと思いますというところです。以上です。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。もう時間が結構きついというところもありますので、申し訳ありません。最後の方でもしもあったら、その他でお伺いしますので、すみません、先に進ませていただきたいと思います。

続いて、⑧、いわて森林づくり推進人材育成事業から大きな4番、令和7年度いわての森林づくり推進事業の予算について、こちらまでを説明お願いいたします。

(森林整備課：似内主任主査)

資料27ページを御覧ください。いわて森林づくり推進人材育成事業でございます。

こちらの事業は、地域の森林整備活動を推進するために、まず森林に明るい方、専門知識、技術を有する方を育成するというを目的として実施しております。その方を「いわて森林づくりコーディネーター」として認定いたしまして、森林の有する公益的機能の維持増進を図るものでございます。

令和6年度の取組実績です。1番の研修等の開催というところでございますが、研修を開催いたしました。成果指標のところには、計画値1に対して実績値1とあります。それから、参加者数は14の計画

に対して15の実績ということで、達成率は107%となっております。

下の方の（１）、集合研修を御覧ください。先ほど研修会１回と言いましたが、これ１回というのはこの下の表の研修を総称して１回ということになっておりまして、研修は細かく分けるとこのようにたくさん行っております。一番下のフォローアップ研修というのだけは、既にコーディネーターになった方を対象として実施している研修でございます。それ以外の上の７つの研修については、新しくコーディネーターになろうとする方を対象として行った研修ということになります。

下の写真御覧いただければ分かると思いますけれども、研修の内容としましては森林の中に入って実際に測量ですとか、実際に木の生育状況を見て、どのような森林に仕立てていくかということを検討するというような研修、それから右側の写真につきましては、実際に伐採等を行うときには、やはり安全というものが大事になってきますので、安全な伐倒について専門家から指導を受けるというような内容で研修を行いました。

次のページ、28ページを御覧ください。（２）の派遣研修とあります。こちらは、この事業によりまして、以下の表にあるに研修の派遣費用、宿泊ですとか旅費等をこの事業の中から支出するというで行ったものでございます。研修としましては、地域林政アドバイザー研修ですとか、あとは伐採とか刈払機に関する特別教育、これらの受講に関する支援を行っております。

先ほどの（１）の集合研修と（２）の派遣研修、２つを終わった方をいわて森林づくりコーディネーターとして認定しております。昨年度は、９名の方を新たにコーディネーターに認定いたしまして、令和３年度からの累計にいたしますと37名の方がコーディネーターとして認定されております。

Ⅲ番の取組の成果でございますが、コーディネーターの方々、それぞれの立場に所属しながら、研修で得た知識、スキル等を生かして森林所有者等の相談に対応するなどの活動を行っていただきました。

Ⅳ番、今年度の対応でございます。このコーディネーターの育成研修は、残念ながら昨年度で終了となっております。ですので、あと残っている県が実施する研修等、そちらを受けて、コーディネーターになれる認定要件を満たした方を対象に、認定の事務を進めてまいります。

それから、認定されたコーディネーターを対象としたフォローアップ研修は、引き続き開催していきます。こちらは、この県民税以外の予算の実施ということになります。以上でございます。

（林業振興課：澤口主任主査）

続いて、29ページ、普及啓発事業になります。

事業の概要としては、県民税の周知・情報発信するため、認知度向上を図るため実施しているものですが、昨年度の実績としては、県民アンケートを実施しておりまして、その認知度が49.4%となっております。令和５年度48.7%でしたので、少し上がったという結果となっております。

取組については、特に新しい取組はありませんけれども、チラシの配付、またSNSによる情報発信を行っているといったところで、令和７年度も引き続き情報発信を行い、認知度向上を図っていきたいと考えております。以上です。

（都市計画課：櫻庭主任主査）

続きまして、30ページになります。県土整備部都市計画課の櫻庭と申します。座って説明させていただきます。

高田松原津波復興祈念公園管理運営費ということで、令和６年度から事業実施させていただいております。令和５年度に開催しました全国植樹祭のレガシーを継承するために、植樹祭の当日に一般招待者

の方が記念植樹いたしました植栽木について、保育管理のため、下刈りを行っております。

令和6年度の実績・成果ですけれども、国営西エリアという地域の6,826.09m³におきまして、年2回の下刈りを実施いたしました。

令和7年度も引き続き植栽木を保育管理するため、年3回の下刈りを実施し、全国植樹祭のレガシーとして継承してまいります。以上です。

(林業振興課：澤口主任主査)

続きまして、31ページになります。事業評価委員会の運営費で、概要等が書かれておりますが、令和6年度の実績、下の方にありますけれども、昨年度については委員会を6回開催しております。そのうち、現地調査を1回実施している状況です。詳細については、下の表に書かれておりです。

続いて、32ページ、取組の成果というところで、上段については、例年のとおりの内容が記載されておりますけれども、その下の段になります。書かれているのは、追記しておりますが、昨年度の若齢林と、あと森林環境再生造林の施工地の現地調査を行うとともに、森林を取り巻く情勢の変化や県民の意向を踏まえて、県民税の在り方について意見交換を重ねております。そして、県民税の基本的方向について、最終的に委員会として提言書を取りまとめたというところを記載させていただいております。

今年度、令和7年度の開催予定というところで、一番下の表になっておりますが、今年度については5回を予定しております。第3回では、現地調査を検討しております。また、令和8年度以降の県民税の意見交換等を実施していきたいと考えております。それから、今このスケジュールの関係は公表できない状況にありますので、各委員会で意見交換を重ねて、御意見いただきながら進めていきたいと考えております。

続いて、33ページになります。7年度の予算についてというところで、7年度の税収の見込みですけれども、約7億4,000万円と見込んでおります。

下の事業費のところですが、令和6年度と7年度の当初予算ベースで比較した表になっております。大きなところでは、環境の森整備事業で、約4億円の減額といったところになっております。この内容ですが、第4期、最終年度を迎えるに当たって、事業について、予算規模の見直しを図ったというところになります。例年ですと、約600haを計画しておりますが、それに見合う予算だと6億円ぐらいの規模になっていきますが、ただその予算に対して多額の繰越しがあるといったところで、事業を見直しているといったところです。ただし、令和6年度から7年度の繰越予算が大体4億7,000万円ぐらいありますので、合計すると6年度より少し上回るような予算規模になっているため、十分事業は実施できる予算になっております。

林野火災については、先ほどのステッカーの配付等が大分少なくなってきたというところで、減額になっております。

花粉症対策については、伐採等の作業が終了して、国庫事業等に予算が移行するものもありましたので、予算は減額となっているところです。

(4)の県民参加ですけれども、県民参加については、クマの対策である緩衝帯整備の事業を盛り込んでいる関係で増額となっております。

多面的機能については、増減は少ないですが、事業名が令和7年度から変更になっております。

(5)、木育については、計画的に事業費を減額する計画となっております。

森林公園については、サイロの大きな施設整備がなくなっている関係もあって、減額となっているところです。

あと、下の人材育成については、事業が廃止となったところで、ゼロとなっております。

(10) の高田松原の管理運営費ですけれども、先ほど説明があったとおり、下刈り 2 回から 3 回にした関係で、事業費が増となっているところです。

最後の事業評価委員会運営費については、今年度も引き続き県民アンケート調査を予定しておりますので、その関係で人数が少し増える関係もあって、増額となり、トータル約 7 億円規模の予算となっているところです。

詳細については、34、35 ページで御確認いただければと思います。以上です。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。

ただいま 27 ページから 35 ページまで御説明いただきました。何か御質問、御意見等ございますでしょうか。川田委員、よろしくお願いします。

(川田昌代委員)

6 番のいわて森のゼミナールの金額のところなのですけれども、減額ではなく、増額ではないかなと思うのですけれども。

(林業振興課：澤口主任主査)

修正忘れです。失礼しました。そのとおりです。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。

他いかがでしょうか。野口委員、よろしくお願いします。

(野口麻穂子委員)

人材育成事業のほう、6 年度で終了ということでしたけれども、これはもともと当初計画でそうだったのですしたか。記憶がはっきりしていなくて申し訳ないですが、確認させていただきたいです。

(森林整備課：似内主任主査)

当初として、こちらは終了ということで計画してございます。

(野口麻穂子委員)

分かりました。ありがとうございます。

応募してくださりそうな方というものの人数には、恐らく限りがあると思いますので、ある程度の期間で一回止めて計画するという形であるのは、合理性はあるような気がしますけれども、もし良好な結果が得られるようであれば、例えばまた次期の事業でも計画されとか、次期あるいはその次とかという形で、少し次の世代の方が出てきそうなタイミングで、また計画されるといったようなことは考えていらっしゃいますか。

(森林整備課：似内主任主査)

今37名の方がコーディネーターに認定されておりまして、あと資料の28ページにある地域林政アドバイザー研修という県が実施している研修、こちらを受講されますと、認定の要件を満たす方々10名ほどいらっしやって、大体50名程度になる見込みでございます。年齢層を見ますと、上の方は70代の方もいらっしやいますし、あとは大体50代、60代の方が多いので、あと10年から20年程度は今のアドバイザーの方々に地域の核となっていたいただけるのかなとは思っております。ただ、その活動状況を見ながら、今後また検討してまいりたいと思います。以上でございます。

(野口麻穂子委員)

承知しました。ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

齋藤委員、よろしくお願いします。

(齋藤健吾委員)

ありがとうございます。齋藤です。今年度もよろしくお願いします。

事業費の予算についての資料の書き方の問題だと思うのですが、この33ページでまとめて書いているのでいいかと思うのですが、21ページで、右上の方に単位千円と書かれているのですが、事業費は記載がなかったところだったので、取組のページそれぞれについても、例えば事業費が細かく、何に何ばかかったというのが見られるとありがたいなというのと、あとはその事業を実施した企業、団体が分かれば、どういうところがやっぺいらっしやるのかなというのが見えてありがたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

(國崎貴嗣委員長)

事務局から、特によろしいですか。

先ほどの一番最初の稲村委員の御指摘ともある種同じような、もうちょっとこの実績報告書のところの詳細を書けるものは書いていただきたいという趣旨だと思いますので、可能な範囲でそういう形で具体化していただけるとありがたいと思います。

その他いかがでしょうか。あと1件ぐらいお受けできるかと思いますが、よろしいですか。

「なし」の声

(國崎貴嗣委員長)

それでは、議題の(1)についてはここまでとさせていただきます。

次の議題の(2)なのですが、これに入る前に担当の職員さんたちの出入りというか、御準備等々がございますので、ここで1時間も経過していますので、休憩を取らせていただきたいと思います。10分程度、休憩を取りたいと思いますので、一旦マイクをお返ししたいと思います。

(林業振興課：田島振興担当課長)

ありがとうございました。

それでは、ただいまの時間から10分間の休憩といたします。委員の皆様におかれましては、11時20分に再開をいたしますので、それまでに席にお戻りくださるようお願いいたします。

(休憩)

(林業振興課：田島振興担当課長)

時間になりましたので、國崎委員長、後半の分、よろしくお願いいたします。

(國崎貴嗣委員長)

それでは、議事を再開いたします。

(2) 令和7年度県民参加の森林づくり促進事業企画採択に係る意見聴取について(2次募集分)

(國崎貴嗣委員長)

続いて、議題の(2)ということで、3月のときは県民参加の森林づくり促進事業についての御意見を委員各位からいただくという機会があったのですが、今回は2次募集分ということでございまして、追加で計3件の事業が上がってきておりますので、まずそちらの説明をお願いいたします。

(林業振興課：竹原主任主査)

それでは、資料ナンバー2を御覧ください。県民参加の森林づくり促進事業の2次募集分の3件を御説明したいと思います。

今回は、資料も抜粋版ではなく、事前にお送りしたのもフルバージョンで、見積書ですとか、いろいろ含んだものでお送りしてございますので、スクロールが大変かもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、1ページ目、3件を紹介します。まず、今回の3件は、昨年度、令和6年度の2次募集で出てきた3件と同じものということになってございます。

まず1つ目、きたかみ里山クラブの事業名、里山遊び場「雷神の森づくり」事業、2つ目が特定非営利活動法人吉里吉里国、森と共に生きる地域づくり～大槌の森を知る・学ぶ・活かす、そして3点目がNPO法人地球の仕事大學つちのこ保育園の「つちのこ森フェス」開催と森林整備事業、以上3件となっております。

それでは、簡単に概要を説明をしたいと思います。まず、こちらの事業につきまして、2次募集は4月11日から5月10日までの1か月間ということで募集をさせていただきました。こちらの当該3件は、昨年度の6年度に引き続きということで、新規団体はございません。全て継続の団体ということになってございます。

それから、資料飛びまして24ページを御覧ください。スクロールして、申し訳ございません。きたかみ里山クラブの事業の概要でございます。申請区分は、森林を学び活かす活動でございます。地元の里山を利活用できるよう森林の環境整備を行うということと、子供たちの森の遊び場の作成や自然観察、森林学習を行おうとするものでございます。事業の内容は、1から5まで森林整備、遊具づくり、3番、ツリークライミング体験、そして4番、森林観察会及び自然観察会、そして5番として県産材活用によるカービングアートで森に親しむというような内容になってございます。応募額は、補助対象額のとこ

ろを見ていただきまして、令和6年度と7年度、若干の増減はございますけれども、大体同等の70万円ほどということになってございまして、内容は森林体験学習等に係る講師謝金や旅費等、燃料代、あと作業委託費等となっております。

次に参りまして、次、43ページにお移り願います。2つ目の申請の企画概要です。吉里吉里国でございまして。こちらにつきまして、同じく森林を学び活かす活動ということでございまして。地域住民を対象とした森林学習会ですとか、学びの場ということで、事業の内容のところ、AからOまで書いてございまして。刈払の講習会ですとか、チェーンソー関係の講習会、あと安全衛生に関する講習会等、森林を学ぶ学習会ですとか、もろもろ開催をするということになってございまして、計15回、26日間開催という計画を立ててございまして。下の方に参りまして、補助対象額ですけれども、若干の増減ございますが、昨年度と同じく100万円の申請ということになってございまして、主な経費は研修会の講師謝金とか、講習会で使用する機器購入費等というようなことになってございまして。

3点目の内容に参ります。続きまして、76ページをお願いいたします。先ほどの6年度の実績のところでも御紹介いたしましたNPO法人地球の仕事大學つちのこ保育園でございまして。昨年度に引き続き、2回目の申請ということになってございまして。事業の内容でございまして、大きく2つ、子供向け森林活用体験イベントの開催ということになってございまして、そのうち縄文の森林づくり体験イベントと「つちのこ森フェス」の開催の2本立てということになってございまして。子供たちを対象ということになってございまして、森林に親しみ、自然のすばらしさに気づき、自然と人が調和する社会づくりということで、事業を実施する計画となっております。申請の金額でございまして、昨年度と同様に100万円ということになってございまして。

1から3番目の概要の説明は以上でございまして。よろしくお願いいたします。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。ということで、また1件ずつ確認をしていきたいと思っております。随分戻っていただきますが、24ページ目から始まっていくたかみ里山クラブの里山遊び場「雷神の森づくり」事業というものについて、まず御意見等を伺えればと思っております。先ほど御説明いただいたように、基本的には総額、あるいは各費目も概ね前年度と同様な形で計画されておりますので、昨年度の実績等を踏まえながら、今回も申請していただいているということかなと思います。こちらについて、何か御意見、御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

こちらの団体は、過去もう4回採択されてということで、もうある程度この事業を使う経験もおありですし、そういう中でツリーライミングですとか、遊びの部分も含めながら、その前段として森林整備もやった上で、そういう森林とか樹木と親しむといったような活動、あるいは観察会等を行ってという事業でございまして。特に御意見はございませんか。よろしいですか。

「なし」の声

(國崎貴嗣委員長)

そうしましたら、次に行きたいと思っております。ちょっと私のタブレット消えてしまった。失礼しました。

続いて、2件目ということで、43ページです。43ページ目から、吉里吉里国、事業名は森と共に生きる地域づくり～大槌の森を知る・学ぶ・活かすという事業でございまして。こちら先ほどの団体と同じ、過去の採択回数は4回ということになっております。それから、総額は昨年度も今年度も100万円という

形で上がってきていて、昨年度は備品の購入費というのが若干ありましたが、今年度は総額は同じですけれども、需用費とか役務費とか、こういったところを内容を見ながら増額されて、トータルとしては100万円という形で出てきているのかなと思います。こちらについて、何か御意見、御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。

こちらの事業、非常にたくさんの項目、いろんな研修とか、講習会とか、そういったものが主体でございますけれども、非常に多くの取組をされているということですので、確かにこれだけいろいろやるといふうになると、額はそれ相応に必要なのかなと思うところでございます。こちらもよろしいですか。野口委員、よろしくお願いします。

(野口麻穂子委員)

複数回実績もある団体なのということですが、例えば昨年度の実績が分かるような何かとかというのはございますか。結構団体によっては、何か広報を出していらっしゃったりとか、取材とか来たものを載せていらっしゃったりとかということがあるかなと思うのですが。

(沿岸広域振興局林務部：溝上上席林業普及指導員)

釜石の沿岸広域振興局林務部の溝上です。よろしくお願いします。

吉里吉里国としての広報については、一応SNS等で発信はしているのですが、こちらのほうに資料としては特になくて、実績報告という形でまとめてはありました。ただ、資料として今回添付していないので、申し訳ないのですが、昨年度も同じく15回、26日の実施をしております、今年度と昨年度の大きな違いというのがフォローアップを中心に今年度はやっているという感じになっております。過去、最初は技術取得から計画、安全と来ておまして、今年はそれを総合的に、全般的にやるという部分、あとはサンデー農業というか、普段は別の職業をやっていて、例えば刃の切れが悪いのだけれども、どうすれば研げるだろうねみたいな感じの人たちを対象に、より広げていくというのが今年のメインとなっております。

(野口麻穂子委員)

分かりました。どうもありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

ほかの委員は。平井委員、よろしくお願いいたします。

(平井勇介委員)

すみません。何かお詳しくあるので、聞いてみたいのですが、吉里吉里、震災後の地域の人たちの仕事づくりから発展してきたと書いてあるのですが、それは今現状どういう形でしょうか。

(沿岸広域振興局林務部：溝上上席林業普及指導員)

現状も、例えば会員数というのは、昨年が63人に対して今年72人と、やはり地域に対して浸透して会員は増えている感じですし、例えば山を頼まれて、山から木を出して、その木をまきとして販売したりして地元に戻元したりとか、あとは林業と福祉を連携している事業体に対して、まきの材料を供給したりとか、そういう活動を現在やっております。

(平井勇介委員)

詳しくなので、もう1つ、時間ないかな。

その地域の方々のもとと、場所的にちょっと分からないですけども、山村というか、あそこら辺だとリアス式なので、海か山か、そこら辺はもともと山の仕事をしている方がそういう形になっているのでしょうか。

(沿岸広域振興局林務部：溝上上席林業普及指導員)

面白いのですけれども、協力隊の方々とかがそのまま定着して、海も山も回ったりしているので、実際地元、生え抜きの方が立ち上げた団体ではあるのですけれども、その受け入れた協力隊の人たちがコアメンバーとなって活動が続いているという感じのNPOになっていました。

(平井勇介委員)

分かりました。ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

他の委員の方よろしいですか。

「なし」の声

(國崎貴嗣委員長)

では、次の3つ目の団体に移ります。76ページ以降です。先ほど御説明あったように、議題の(1)で、報告書でも事例として取り上げられていた団体でございますが、縄文の森づくり体験イベントとつちのこ森フェス開催事業という形で、昨年度初めてで、今年度2回目の応募ということになってございます。こちらも総額100万円ということで、昨年度初めてということで、その経験を踏まえてということだと思いますが、費目の異動等は若干ございますけれども、トータルとしては100万円という形で計画がされております。こちらについて、何か御意見、御質問等ございましたらよろしくお願いいたします。齋藤委員、よろしくお願いします。

(齋藤健吾委員)

ありがとうございます。これは、96ページからですけども、DCMさんの見積りがあるのですが、見積り見ていると、多分これは76ページの事業の中に建設したドームと書いてあるので、このドーム用の材料に使うのかなと思うのですけれども、針葉樹合板とか、SPFツーバイフォーとか、あとモノタロウからもラワン合板というような形で、端的に言うと県産材の利用促進とかという観点になったときに、時間ない中で見積り作らなければいけないから、頼みやすいところに頼んだというのは容易に想像はつくのですけれども、実際その事業自体になった時に、例えば県産材の販売をしている製材所とか、そういうのを紹介してあげたりとか、そういう形でできる限り県産材使いましょうねという方向に誘導をしていってもらおうという方が一番いいのかなと思ったのです。どうしてもラワンでなければいけないというのであったら、それはしょうがないと思うのですけれども、一応そこはちょっと御検討いただければと思います。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。とても大事な御指摘だと思いますので、可能な範囲で、齋藤委員がおっしゃったように、どうしてもこれでということがあるならば、その限りではないでしょうけれども、可能な限り県民参加で、しかも県産材を使っただいてという形でやったほうが、よりよい取組になるかなと思いますので、そういう形で御検討というか、御指導いただければと思います。

他いかがでしょうか。子供たちを対象にというような、そういうイベントとか、活動というところをターゲットにしているということで、やはり非常に大事な、もちろん大人の方とかが活動するのも大事なことはあるのですが、次世代を担う、そういうような子供たちが森に親しむというのはとても大事な取組なのかなと思います。よろしいですか。

「なし」の声

(國崎貴嗣委員長)

そうしましたら、以上とさせていただければと思います。

ということで、2次募集分につきましての意見聴取というのは、ここまでとさせていただければと思うのですが、何かございますか。

「なし」の声

(3) 令和8年度以降のいわての森林づくり県民税に係る今後の検討スケジュールについて

(國崎貴嗣委員長)

それでは、続いて紙の資料等々はないのですが、議題の(3)ということで、令和8年度、つまり次年度、いわゆる第5期のことですが、令和8年度以降のいわての森林づくり県民税に係る今後の検討スケジュールについてということで、冒頭でもございましたけれども、今後どんな感じで次年度以降、第5期について検討していくのかということについては、口頭で説明をしていただきます。よろしく願いいたします。

(林業振興課：金澤主任主査)

林業振興課の金澤です。特に今國崎委員長おっしゃっているとおり、資料はありませんので、座って口頭で説明いたします。

いわての森林づくり県民税の今後の基本的方向としまして、皆様のほうから今年3月に提言をいただいた内容でございますけれども、こちら改めて要約しますと、令和8年度以降も継続をいたしまして、引き続き環境重視の森林づくり、あとは県民理解の醸成の取組、これに加えて、新たに森林や森林施策が県民生活に直接関わる分野ということで、クマの出没対策であったりとか、大雨時の流木被害、あとは森林公園等の整備、こういったものに用途を拡充して施策の充実を図ることという提言をいただいたところでございます。

この提言を踏まえまして、現在県としての令和8年度以降の県民税の素案というものを今作成しているところでございます。近日中に公表する予定となっておりますので、皆様のところにも郵送という形で報告、御郵送させていただきます。

今後のスケジュールでございますが、概ね7月から9月にかけてパブリックコメントを実施いたします。あわせて、地域説明会、あとは県民アンケート調査を予定しております。特に地域説明会につきましては、8月のお盆明けの中下旬頃に県内4か所で実施する予定となっておりますので、改めてその際は皆様のところにも御案内をさせていただきます。

また、11月中旬までには最終案を取りまとめまして、県議会に諮る予定となっております。

以上、今後のスケジュールということで御紹介させていただきました。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。ということで、口頭ではございますが、今後どういう形で第5期に向けて作業を進めていくかということで、間もなく、6月の下旬ぐらいでしょうか、素案という形でまた案が提示されると。それをパブコメですとか、あるいは地域説明会等を踏まえながらもんでいって、秋、11月の中旬をめどに最終案というのをまとめ、そして県議会に諮るという形で、第5期の各種事業というものが決まっていくということでございますので、なかなか皆様もお忙しいかと思っておりますので、そういう地域説明会とかに複数出るとか、そういったことは難しいかと思うのですが、今後この事業評価委員会、あるいは委員という立場でいろいろと意見するという機会がございますので、そういったところで積極的に御意見いただければなと思っております。

ということなのですが、ただいまの説明に関わって何か御質問等ございますか。

稲村委員、よろしくお願いします。

(稲村崇史委員)

ちなみに、現地調査の現地の今年度の予定というのは、場所だったり、どういう施工地を見るとか、今の時点で何か予定として分かっていることございましたら教えていただければ。

(林業振興課：澤口主任主査)

まだ担当案の段階なのですが、今年度で20年目、混交林誘導伐迎えますので、それに近い林分を見てみようというところは、担当としては考えております。それに併せて、近くの施工現場、アカマツ林なり、いい現場があればそちらと併せた形で見たいなと考えていました。國崎委員長とも相談はさせていただいているのですが、東和町あたりに施工地がありそうなので、そこを考えています。それに合わせて、委員会もどこか近くの会議室等を借りて開催できればなど、今段階で考えております。

(稲村崇史委員) ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長) 他いかがでしょう。よろしいですか。

「なし」の声

(國崎貴嗣委員長)

今後具体的なそういう素案が出てくれば、いろいろと何だろうというような形で気になる点とかも出てくるかと思っておりますので、そこでいろいろ御意見、御指導いただければなと思っております。

(4) その他

(國崎貴嗣委員長)

それでは、議題の(4)、その他であります。事務局から何かございますでしょうか。
よろしくをお願いします。

(林業振興課：竹原主任主査)

先ほど県民参加の森林づくり2次募集について御審議いただきましてありがとうございました。令和7年度から市町村が実施する野生動物の出没抑制を目的とした森林整備の緩衝帯整備の事業のメニューの方も加えてはいるところだったのですが、1次募集、2次募集とも、市町村からの応募自体はございませんでした。実は市町村から相談自体はいただいている状況でして、ただいろいろ整理をしたりですとか、段取りを組まなければいけないということで、今現在相談を進めている最中でございます。もし間に合えば、今年度3次募集といった形で実施に向けて支援したいと考えてございますので、決まりましたら、また皆様に御連絡させていただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。ということで、3次募集という形で緩衝帯の整備とかということで上がって、ちょうど委員会のタイミングで、うまく合えば委員会の中だと、御意見いただくことになるかと思いますが、そのタイミングに合わないというような場合には、場合によってはメール協議、ウェブ上で期間を設けて、御意見をいただくというような形でさせていただくかもしれませんので、その際はよろしくお願ひいたします。

委員の方から、これは言っておきたいというような、何かございますでしょうか。
稲村委員、よろしくをお願いします。

(稲村崇史委員)

すみません。私ばかりで非常に恐縮なのですが、今年度の事業というか、来年度以降に関わってくることで、多分ほかの部署との兼ね合い等もあると思うので、1つ御意見として参考にさせていただければと思うのですが、大船渡の森林火災の件で、その被害木に関して、要は被害木が燃えているけれども、真ん中の部分を何かに使えないかということ、岩手県さんのほうでもいろいろ検討されているという話は伝え聞いておりますので、その部分、なかなか用材、建築材で使うというのは難しいと思いますが、例えばこの県民税の中で、何かその利用方法等というところで、それこそ激甚災害になっていますので、いろいろ国庫の問題であったり、ほかの特別会計で何かあったりは分からないのですが、そこら辺もあると思うので、一応もしそういったことが県民税で何かできることがあれば、木材利用の部分で、それこそベンチ等というのはこの県民税ですとやっていることですので、何か御検討いただければなと、気にしている部分でした。よろしくお願ひいたします。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございます。

大変重要な御提言だと思います。併せて、例えばいろいろこれから大船渡のほうも伐採していくとかというようなところで、もちろんいろいろ事業費とか確保できているところもあると思いますが、一方

で例えば枯死木除去みたいなメニューがあつて、今は松枯れ、ナラ枯れという縛りがありますけれども、例えばそういったところをうまく読み替えるとか変更することで、そういう火災で枯れてしまったというようなものも処理したりというような形で、うまく使えるものは、今稲村委員さんがおっしゃったような形で柔軟に見ていって、この県民税の事業の枠組みの中でうまく取り扱えるものは取り扱っていただくというのは大事なのかなと。

それとまた、この第5期に向けてのというようなメニューの中に、またそこに反映されていくということもあると思いますけれども、そこはいい意味でその基金がある程度まだあるというところもありますので、御検討いただければと思います。

他の委員の方、よろしいですか。では、佐藤委員、お願いします。

(佐藤貴美子委員)

先ほど県民参加の森林づくり促進事業の3次募集のお話しいただいたのですけれども、実は4月に発足した団体さんで、私から個人的に打診させていただいたら、参加したいというお話をいただいたのですけれども、募集期間が4月に発足すると、なかなか期間が短くて間に合わない。人数も結構な数だったので、その方たちから要望を集める時間も、理事の方も多忙な方でまとめ切れなくて、次の機会にというお話をいただいたのです。2次募集も、今回だったので、できれば3次募集の枠で、もし希望する団体があれば採用というのもありなのでしょうか。

(林業振興課：竹原主任主査)

2次募集が今回3件しかないということで、2次募集はスケジュール的にだんだん年度内は計画が難しいのかなと思って、市町村であれば、そういった形で進められるかなと思っておりましてけれども、特に制限かけるとかいうところは、今のところは考えておりませんので、具体的なスケジュールとか、内部できちんと検討してから、御案内をできるようにしたいと思います。

(佐藤貴美子委員)

承知しました。では、そのように希望はありとお伝えしておきます。ありがとうございます。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。野口委員、お願いします。

(野口麻穂子委員)

野口です。先ほど稲村委員と委員長から御意見ありました大船渡の森林火災への貢献の件は、ぜひ検討を進めていただければと、私からもお願いしたいと思います。

あと、最初の実績報告のほうについて、質問と御意見申し上げたいと思います。18ページの森林・山村多面的機能発揮対策事業の中に、森林機能強化、森林作業道の開設等という事業があつて、これを見ると結構毎年安定して実績が出ているように見受けられるのですけれども、実際例えば1団体当たりの毎回の距離というのはどれぐらいなのかなとか、どんな感じで事業されているのかというのを少し教えていただければと思いました。多分身近なところなので、もうもともとアクセスがある程度あつて、そこを少し延ばしていくというような形なのかなと想像しますけれども、もう今御担当の方いらっしゃるのかもしれないので、また改めてでも構いませんので。

(林業振興課：澤口主任主査)

申し訳ありません。今担当がいないので、持ち帰って別途その回答をお知らせしたいと思います。

(野口麻穂子委員)

ありがとうございます。見ていたら興味を引くところだったので、質問させていただきました。後から構いません。

あともう1点は、いつも申し上げていることなのですが、いわて環境の森整備事業の混交林誘導伐、ここしばらく大体確保数量400ha台で推移していて、毎年少しずつ繰越ししつつも、大体繰越しして、また繰越しみたいな感じで、そのまま推移しているような感じかなと思います。なかなか確保も難しいところがあるということのようですね、恐らく事業体の労力の問題だったりとか、あと林自体が高齢化してきていて、収穫が近くなっていることであるとか、幾つかの要因が考えられていると思います。原因となるところ、やはり整理していただいて、ちょうど切り替わるところもありますので、令和5年度以降、あと対策というか、同じ規模で進めていくべきなのか、その場合はどこがこの施工地面積の確保の障害になっているのかとか、そこをクリアするにはどうしたらいいかとかというところに役立てていただければいいと思います。

例えば20年間の伐採制限の件であるとか、あと前に佐藤委員から御指摘があったような、切捨て間伐にする場合に、積むのが結構労力の掛かり増しになっていて、事業体が大変だといった件であったりとか、いろいろ現場でもしかしたら直せるところも、現場のやりやすさを確保するために直せるところもあるかもしれないと思いますので、引き続き検討をよろしくお願ひしたいと思います。

(國崎貴嗣委員長)

ありがとうございました。ということで、検討いただければと思います。

もう予定している時間に来てしまっているし、もうそろそろお昼という、皆さんそうかと思うので、すみませんが、その他のその他は、ここまでとさせていただきます。

段取りが悪くて、時間長くなってしまいましたが、以上をもちまして議事を終わりにして、事務局にお返ししたいと思います。

(林業振興課：田島振興担当課長)

國崎委員長、長時間にわたり円滑な議事進行をいただきまして誠にありがとうございました。委員の皆様も、本日は大変ありがとうございました。

ここで次回の日程について連絡をいたします。次回の委員会については、9月中旬頃の開催を予定しております。詳細については、追ってお知らせをいたしますので、よろしくお願いいたします。

3 閉 会

(林業振興課：田島振興担当課長)

それでは、以上をもちまして令和7年度第1回いわての森林づくり県民税事業評価委員会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。